第2章　全国及び本県における自殺の現状等

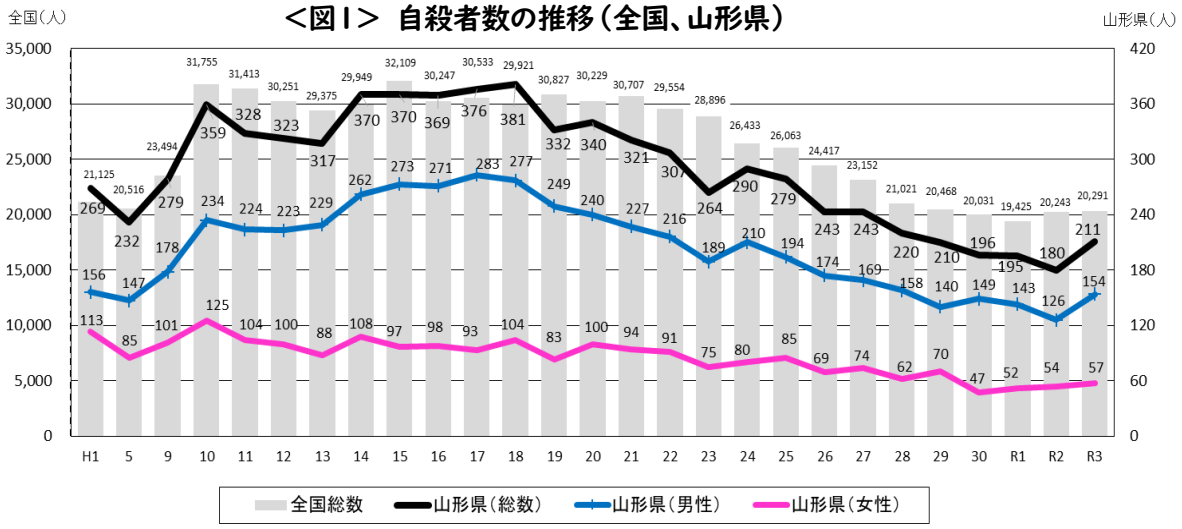
1　自殺者数の推移

全国の自殺者数は、平成22年から令和元年まで連続して減少していましたが、令和２年以降、２年連続で増加しており、厚生労働省は新型コロナの影響を指摘しています。

山形県の自殺者数は、平成18年の381人をピークに減少傾向が続いていましたが、令和３年は211人と前年より大きく増加しました。

性別でみると、男性が自殺者数全体の６～７割を占めていることから、総数の推移と概ね同様であるのに対し、女性は横ばいの状況から近年は緩やかに減少していましたが、令和元年以降３年連続で増加しています。

＜図1＞　自殺者数の推移（全国、山形県）



出典：厚生労働省人口動態統計

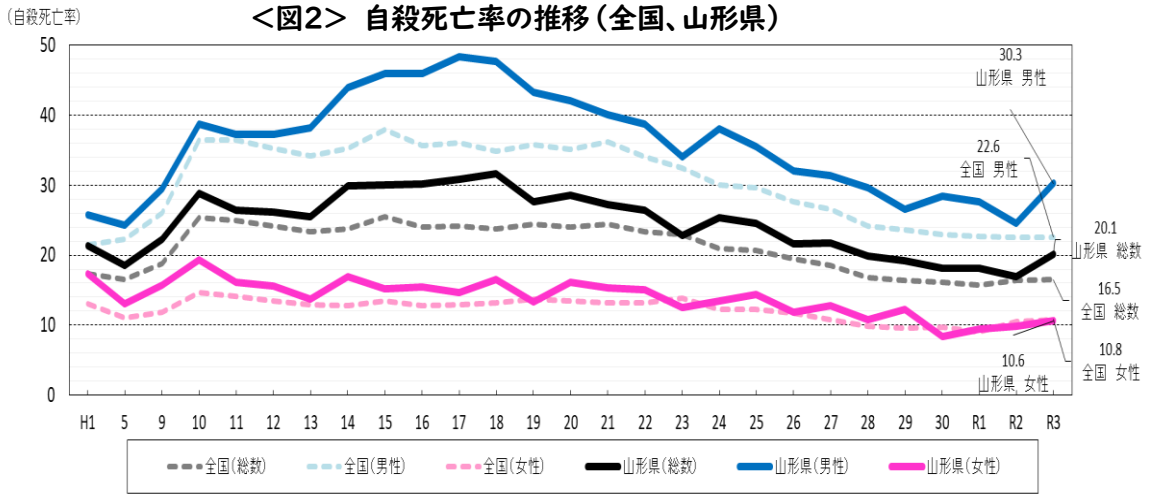
（参考）警察庁自殺統計による令和４年中の本県自殺者数：174名

2　自殺死亡率の推移

山形県の自殺死亡率は全国より高く、全国での順位も一桁台の状況が継続しており、令和３年は20.1と全国で３番目に高い数値となりました。

性別でみると、女性は全国と大きな差が無いのに対し、男性は全国より明確に高い状態が継続しています。

＜図2＞　自殺死亡率の推移（全国、山形県）



出典：厚生労働省人口動態統計

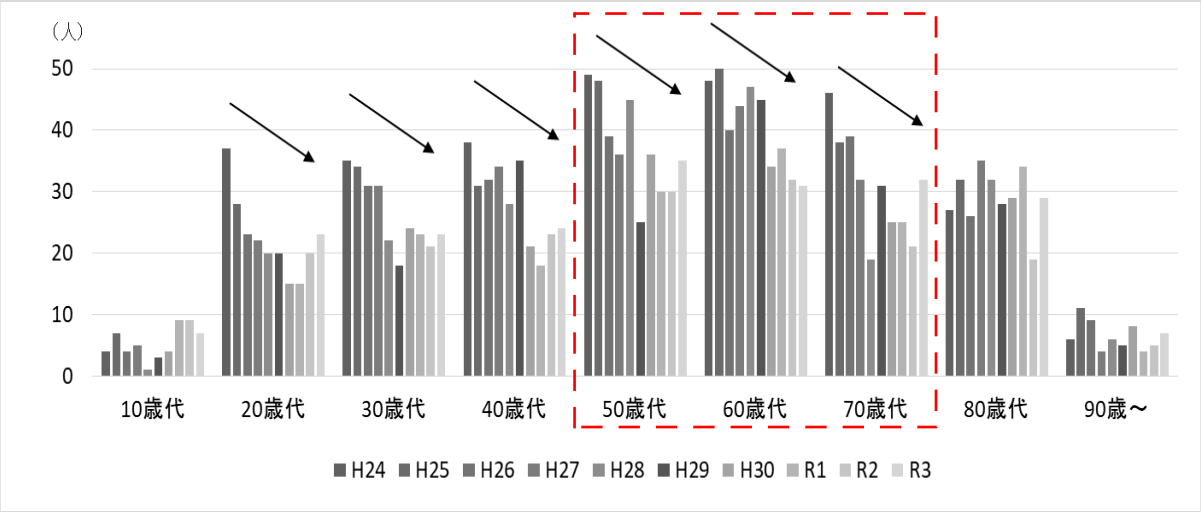
3―1「年齢階級別（総数）」自殺者数の状況

（1）年齢階級別の推移

過去10年間の大きな傾向として、50～70歳代で自殺者数が多く、次いで20～40歳代及び80歳代が多い状況にあります。

推移でみると、20歳代から70歳代は全体的には減少傾向にありますが、最近３～４年は横ばいの状況も見られます。一方、10歳代は増加傾向、80歳代は横ばい状況にあります。

＜図3―1―1＞ 年齢階級別の自殺者数の推移



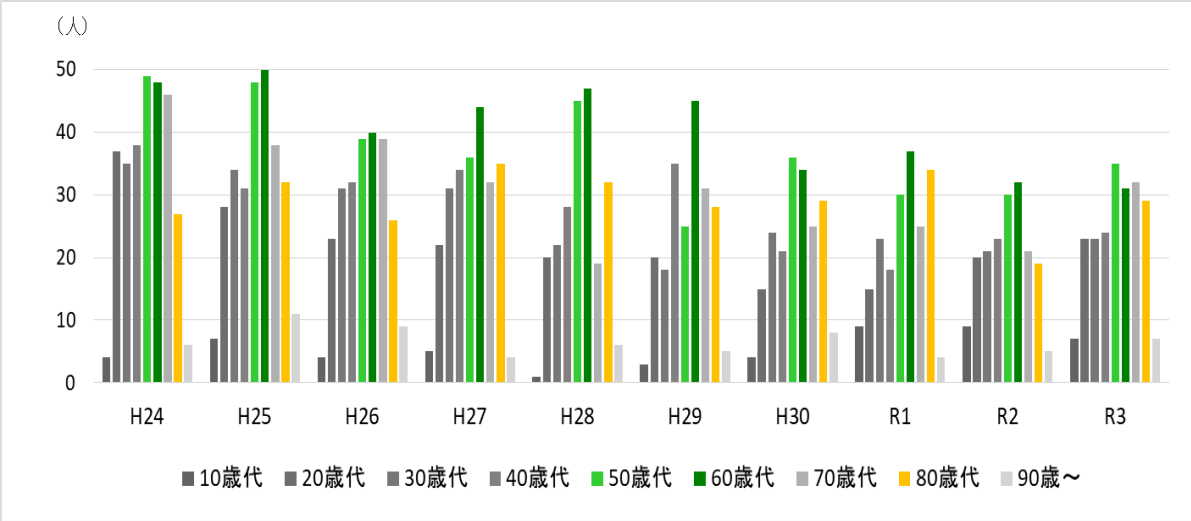
出典：厚生労働省人口動態統計（図 3-1-2 も同様）

（2）各年における年齢階級間の比較

50～60歳代に山がある年度が多い中で、平成27年以降は80歳代が多い年も出ています。全体として減少傾向にありますが、年齢階級間の格差は縮小している状況が見られます。

30～50歳代で全体の約4割、60歳代以上で約5割を占める状況が継続しています。

＜図3―1―2＞ 各年における年齢階級間別の自殺者数の推移



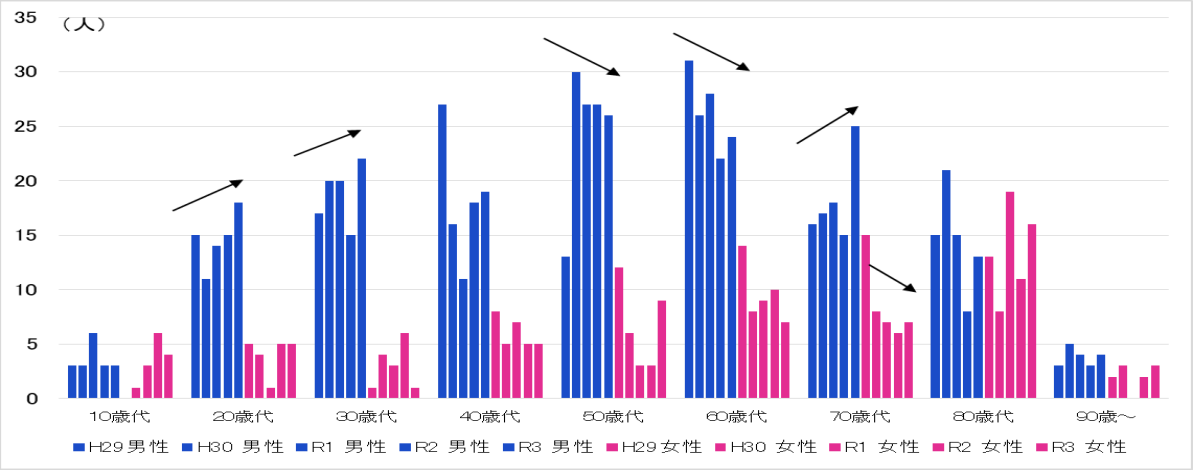
3―2 「年齢階級別（男女別）」自殺者数の状況

（1）年齢階級別の推移

過去５年間の大きな傾向として、男性は 60 歳代までは年齢層が上がるにつれて増加し、70 歳代以降減少する一方、女性は 80 歳代まで増加する傾向が見られます。

過去５年間の推移でみると、男性は 50 歳代及び 60 歳代で減少傾向にある一方、20 歳代、30 歳代、70 歳代で増加傾向にあります。また、女性は 70 歳代などで減少傾向が見られますが、80 歳代の最近３年間は男性より人数が多いことに留意が必要です。

＜図3―2―1＞ 男女別年齢階級別の自殺者数の推移

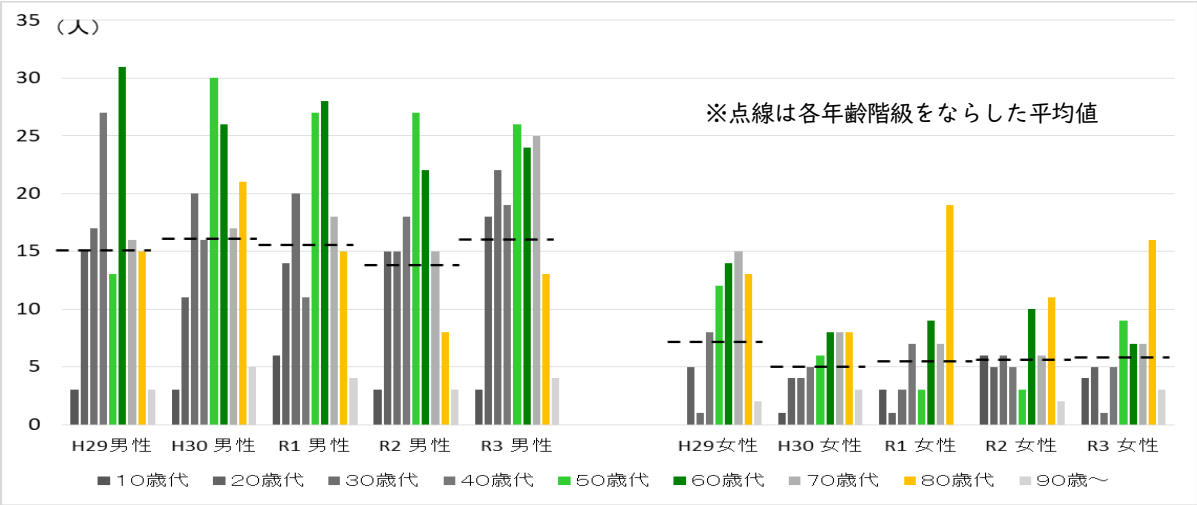


出典：厚生労働省人口動態統計（図３-２-２も同様）

(2) 各年における年齢階級間の比較

男性は、各年の年齢層平均と比較して、50 歳代及び 60 歳代が大きく上回る傾向があります。一方、女性は 50 歳代以降が平均を上回る傾向があり、特にここ３年間では 80 歳代で大きく上回る状況が見られます。

＜図3―2―2＞ 各年における年齢階級別・男女別の自殺者数の推移



〔参考〕年齢階級別死亡原因

本県の令和３年における年齢階級別の死亡原因は右表のとおりです。

自殺は10～30歳代で第１位、40～50歳代で第３位となっています。

＜表＞

年齢階級別の死因順位

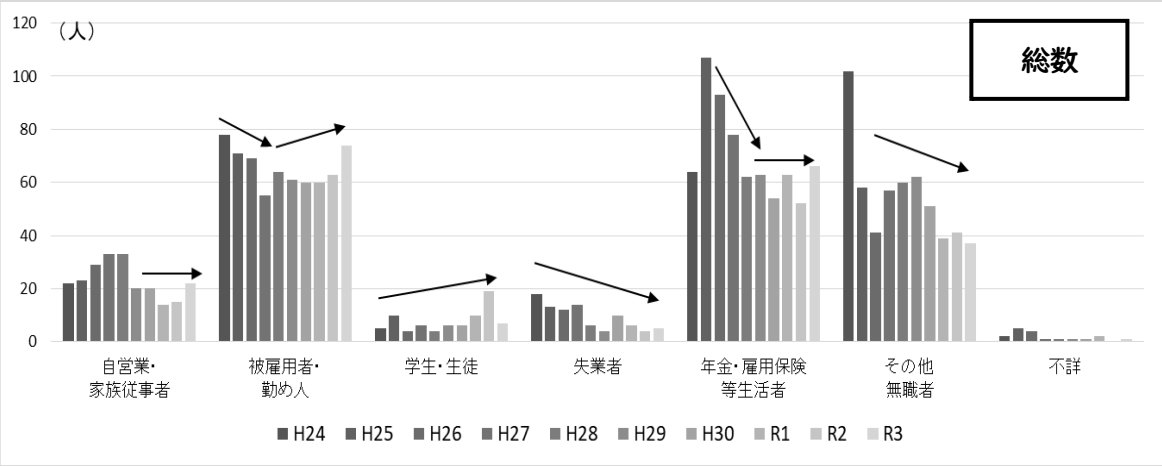
出典：厚生労働省人口動態統計

	１ 位	２ 位	３ 位
10歳～19歳	自殺	心疾患	悪性新生物
20歳～29歳	自殺	悪性新生物	心疾患 不慮の事故
30歳～39歳	自殺	悪性新生物	心疾患
40歳～49歳	悪性新生物	心疾患	自殺
50歳～59歳	悪性新生物	心疾患	自殺
60歳～69歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
70歳～79歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
80歳～	悪性新生物	老衰	心疾患

4 「職業別」自殺者数の状況

過去 10 年間について「総数」で見ると、自殺者数が多いのは「被雇用者・勤め人」、「年金・雇用保険等生活者」、「その他無職者」などとなっております。「失業者」や「その他無職者」が減少傾向であるのに対し、「自営業等」や「年金等生活者」は最近は横ばい、「被雇用者・勤め人」や「学生・生徒」は増加傾向です。

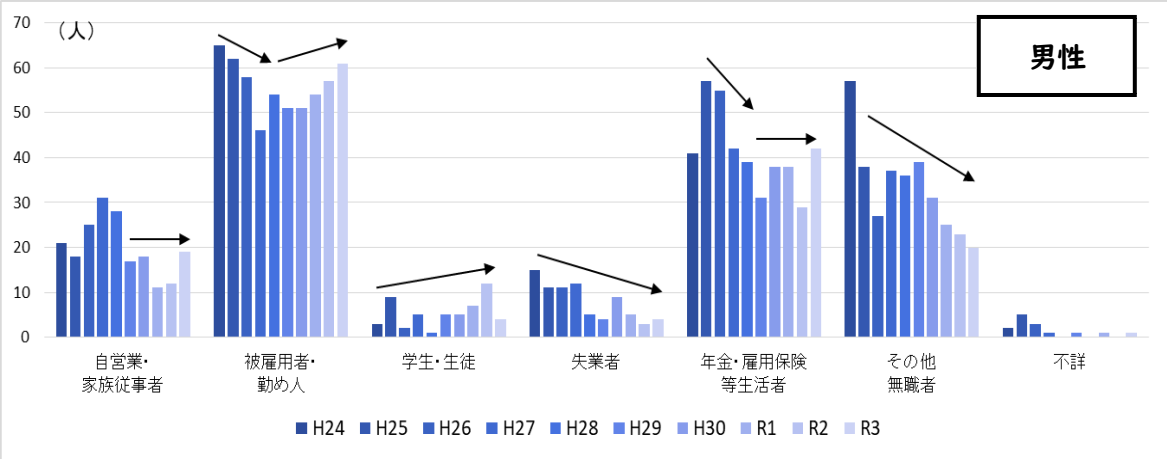
＜図4―1＞ 職業別自殺者数の推移（総数）



出典：警察庁自殺統計（4-2、4-３も同様）

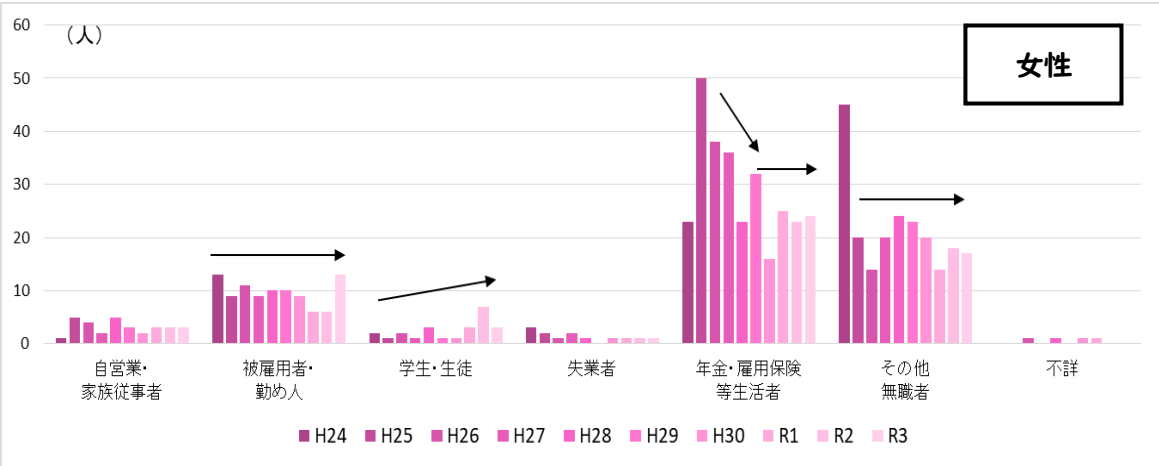
男性については、自殺者数の６～７割を男性が占めていることもあり、傾向は上記の「総数」と同様になっています。

＜図4―2＞ 職業別自殺者数の推移（男性）



一方、女性については、多くを「年金等生活者」や「その他無職者」が占めており、「被雇用者・勤め人」は男性ほど割合として高くないのが特徴です。

＜図4―3＞ 職業別自殺者数の推移（女性）



5 原因・動機別の自殺の状況

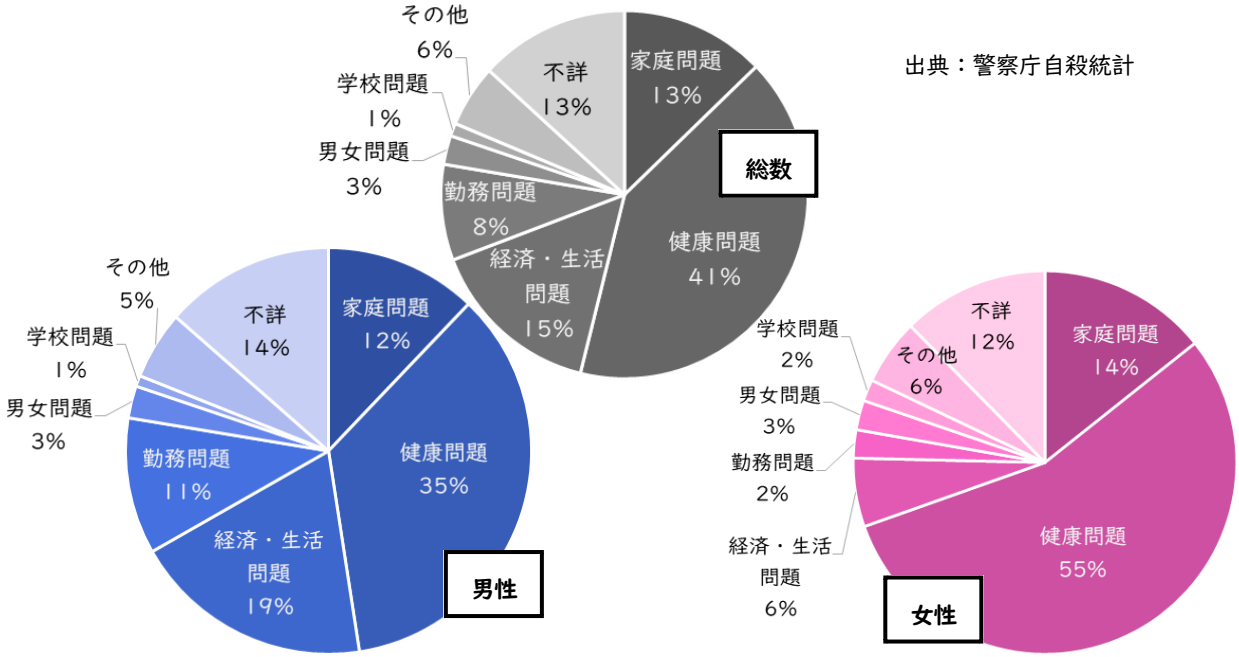
原因・動機別の状況（男女総数）を過去 10 年間の平均で見ると、「健康問題」が約４割を占め、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」の順となっています。

男女別で見ると、男性は「経済・生活問題」や「勤務問題」で総数よりやや大きい一方、女性は逆に少ない状況にあります。

女性については、「健康問題」が全体の半分以上を占めており、年齢が高い層で自殺者数が多いことが影響していると考えられます。

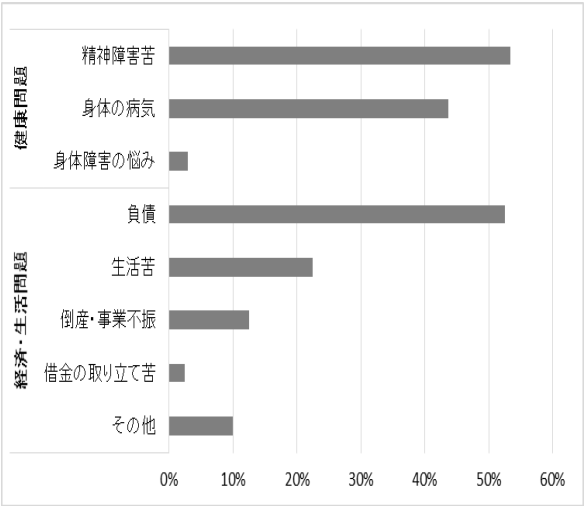
＜図5―1＞ 原因・動機別自殺者数の状況　※過去 10 年間（H24～R3）平均

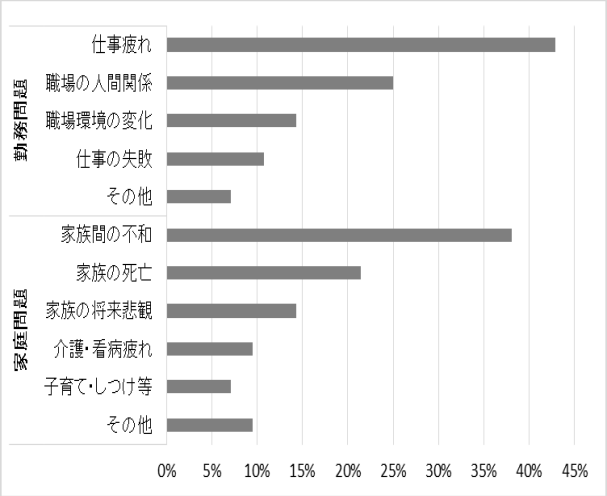
出典：警察庁自殺統計



留意点：原因・動機別の形状については、遺書等の自殺を裏付ける資料があり、明らかに推定できる原因・動機を自殺者１人につき最大３つまで計上している。

〔参考〕令和3年における原因・動機別の詳細内訳　＜図5―2＞ 出典：警察庁自殺統計



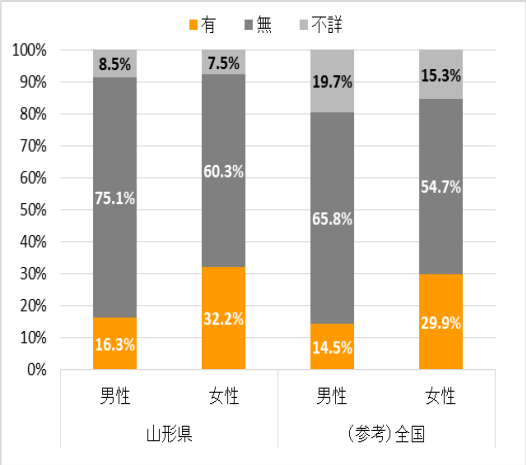


6 自殺未遂歴の有無

自殺未遂歴の有無の割合を過去５年間の平均値で見ると、自殺者のうち未遂歴「有」の割合は男性が 16.3%、女性が 32.2%となっています。

男女間での未遂歴の有無の差は、男性がＳＯＳを出さない傾向があることとも関係があると考えられますので、未遂者への対応とともに、未遂歴「無」の自殺者数を減少させる取組みが必要です。

＜図6＞ 自殺者の自殺未遂歴の有無の割合
※過去5年間（H29～R3）平均



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

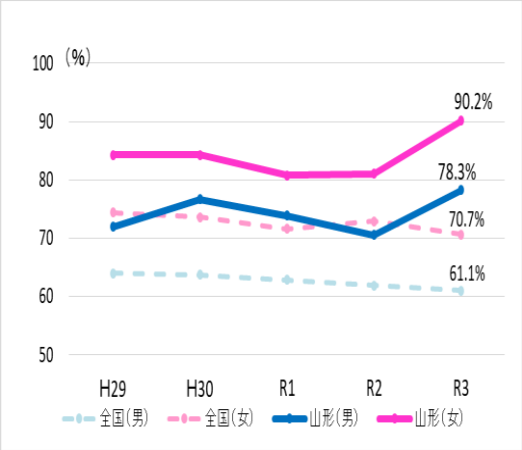
7 同居者の有無

自殺者のうち、同居者の有無を過去５年間でみると、同居者「有」が男性は７割台、女性は８割台（R3 は９割）で、 同居者「有」の割合が高くなっています。

全国より割合が高いのは、本県において同居者「有」の世帯数が多いことも要因として考えられます。

＜図7＞ 自殺者の同居者「有」の割合（H29～R3）

出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

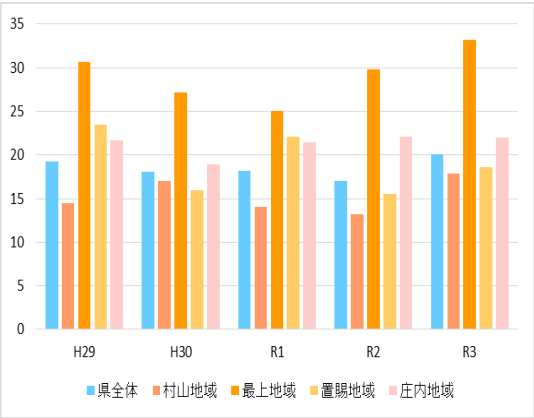


8 地域別の自殺死亡率の推移

地域別の自殺死亡率の推移について過去５年間でみると、県全体の率と比較して、村山地域が低い一方、最上地域や庄内地域で高い傾向にあります。

＜図8＞ 県内4地域の自殺死亡率の推移
（H29～R3）

グラフの出典：自殺者数（厚生労働省人口動態統計）/
人口（山形県の人口と世帯数（県統計企画課））



〔参考〕 山形県と全国との較差について

いのち支える自殺対策推進センターがまとめている「地域自殺実態プロファイル2022」に基づき、山形県と全国との差について考察した結果は以下のとおりです。

（1）自殺者の割合・自殺死亡率（性別・年齢階級別・職の有無・同独居）

【自殺者の割合（自殺者数全体に占める割合）】

男性は、①「60歳以上・無職者・同居者有」、②「40～59歳・有職者・同居者有」、③「20～39歳・有職者・同居者有」の順、女性は①「60歳以上・無職者・同居者有」、②「40 ～59歳・無職者・同居者有」、③「60歳以上・無職者・独居者」の順に高く、全国と同様の傾向ですが、男女とも①の割合の差が大きいのが特徴です。

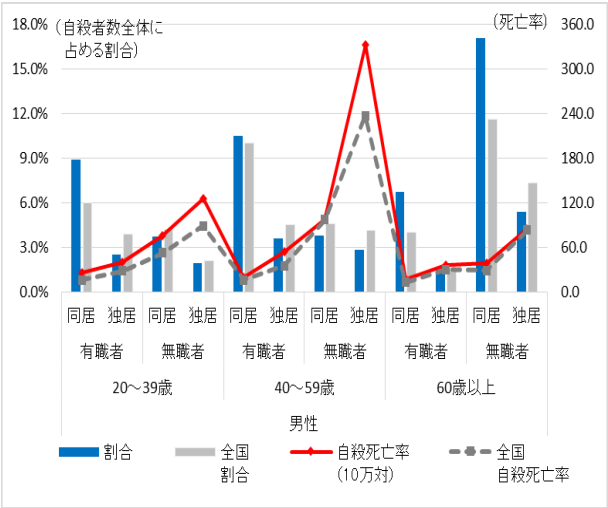
【自殺死亡率】

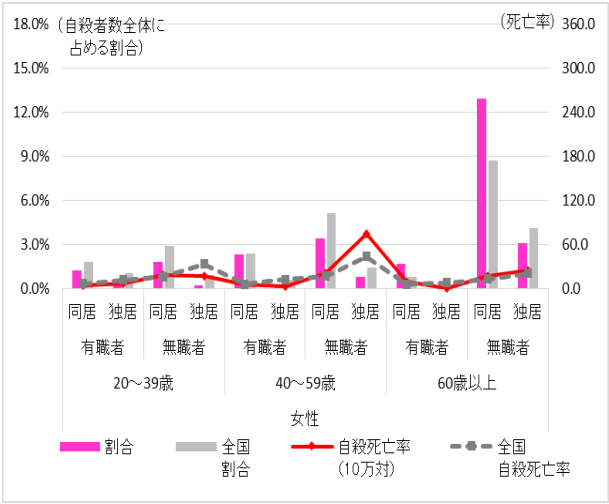
男性は総じて全国を上回っており、「40～59歳・無職者・独居者」や「20～39歳・無職者」で差が大きくなっています。一方、女性は下回る区分も見られる中、男性同様、「40～59歳・無職者・独居者」で差が大きい状況です。

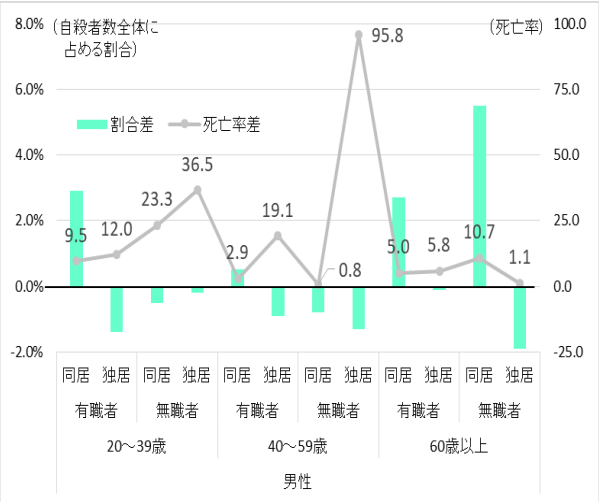
＜図・参考 1＞

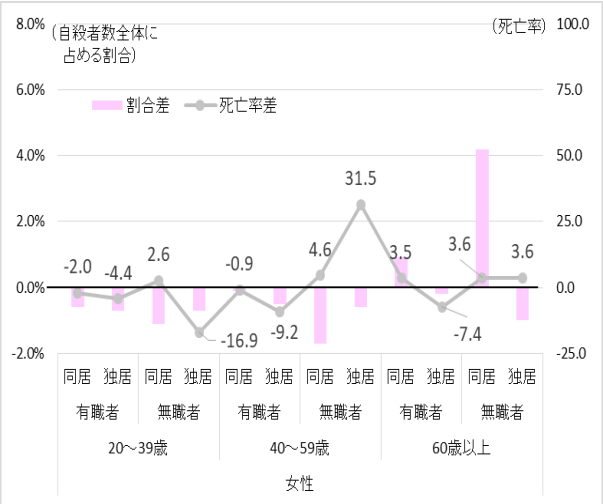
自殺者の割合・自殺死亡率（性別・年齢階級別・職の有無・同独居、H29～R3 平均）

※下段は全国との差を図示（数字は自殺死亡率の差）









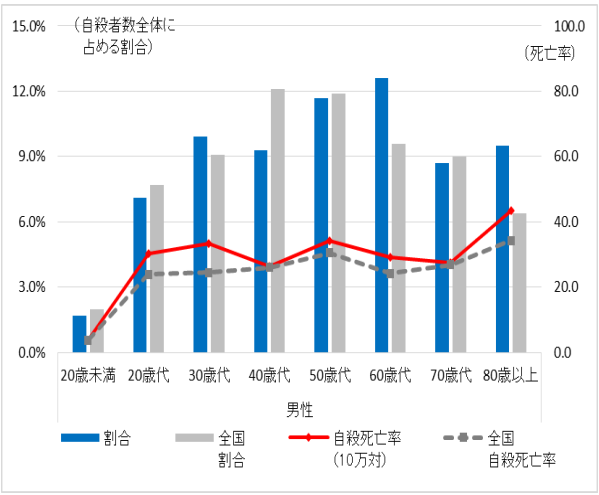
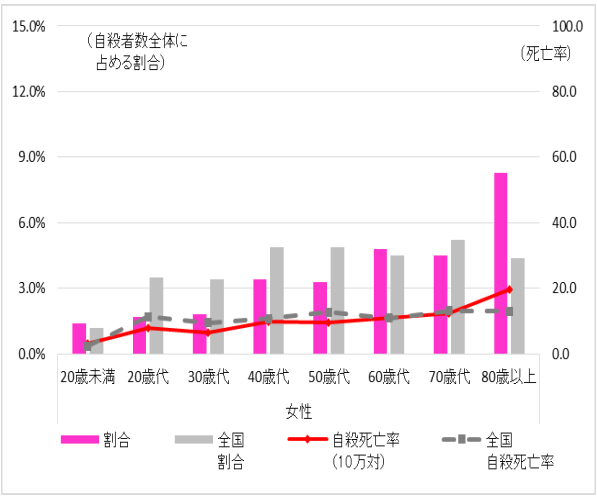
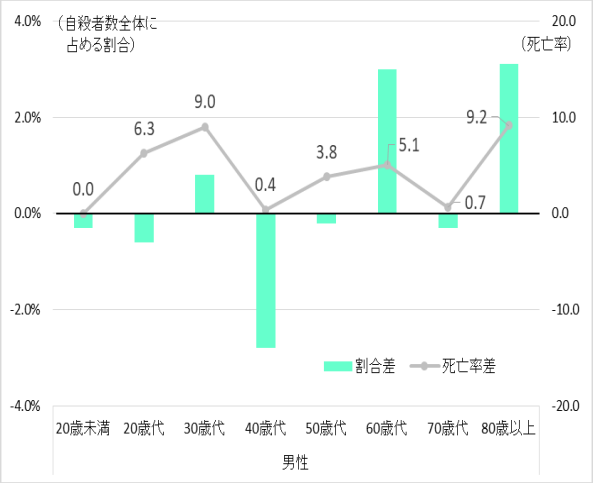
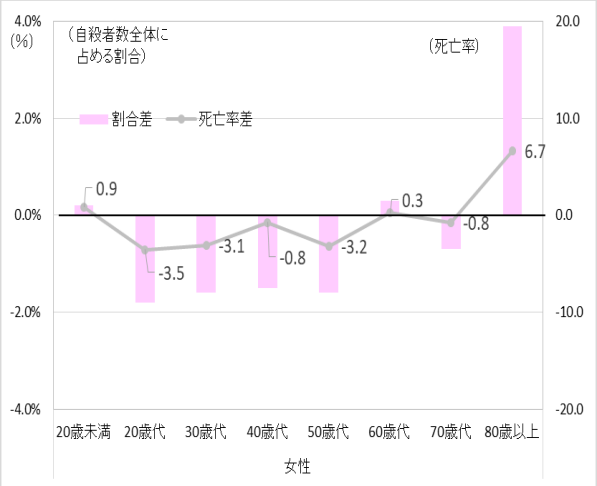
(2) 自殺者の割合・自殺死亡率（性別・年代別）

【自殺者の割合（自殺者数全体に占める割合）】

全国と比較すると、男性は40歳代で少なく、60歳代と80歳以上で多くなっています。また、女性は50歳代以下が少ない一方、80歳以上で多くなっています。

【自殺死亡率】

男性は多くの年代で全国を上回っており、20歳代、30歳代、60歳代及び80歳以上等で差が大きくなっています。一方、女性は全国を下回る年代が多い中で、80歳以上で上回る幅が大きい状況です。

＜図・参考 2＞ 自殺者の割合・自殺死亡率（性別・年齢階級別、H29～R3 平均）

※下段は全国との差を図示（数字は自殺死亡率の差）